

山王山古墳

ぜんちょうじ となり もつとも よい じょうたい ほぞん こふん
善長寺のすぐ隣に、市内で最も良い状態で保存されている古墳があります。

形…前方後円墳。

サイズ…全長 47m、後円部の
直径 37m、高さ 5m

いつ…6世紀後半～7世紀初頭の
古墳時代後期

出土品…金環、刀十口。その
一部は善長寺に保管

しゅうい ちようさ
周囲…堀があった(1984年の調査
による)



この古墳は、写真にも写っている手前の道路を造るために、一部削られてしま
っています。その時に起こった不思議な出来事が、館林市教育委員会発行の
「さとやの民俗」に書かれています。

こふん ほら ときしゆつど かたな よろい ぜんちょうじ ほかん
古墳はかつて掘られたことがある。その時出土した刀や鎧は善長寺に保管
してあるといわれている。その後、まるやしき ぜんちょうじ しゅうへん でんせんびよう りゆうこう
丸屋敷(善長寺周辺)に伝染病が流行し、
それはこふん ほつ こふん ちようじよう さんのう さま みや
古墳を掘ったあたりだということで、古墳の頂上に山王様のお宮を
建てたという。